

わが国では、2019年開催のラグビーワールドカップや2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックなど、数年の間にスポーツのビッグイベントが多く開催されます。今後、世界中で楽しんでいるスポーツを通じて、インバウンドなどを呼び込む「スポーツ観光」の振興が期待されます。

観光庁「スポーツツーリズム推進基本方針」(2011年6月策定)によると、わが国のスポーツ観光における重要な資源には、「観る(観戦)スポーツ」、「するスポーツ」、「支えるスポーツ」の3つがあります(図表)。わが国には、プロ野球やJリーグ、大相撲など、国際的に高い評価を受けている「観る」スポーツのほか、スキーやゴルフ、登山など、豊かな自然環境や美しい四季を利用した「する」スポーツがあり、これらの資源はスポーツを「観る」、「する」ための旅行や周辺地域での観光といった需要を生み出します。さらに、スポーツを「支える」地域や団体、ボランティアなど、わが国のスポーツを取り巻く環境は他のアジア諸国に先行しており、スポーツの観客・参加者と「支える」人々との交流もスポーツ観光の振興において重要な役割を担うと言えます。

スポーツ観光に期待される効果として、①スポーツを観戦・参加する訪日外国人の増加、②国際大会やスポーツ関連会議など国際イベントの増加、③スポーツを通じた旅行喚起による国内宿泊数・消費額の増加、が挙げられます。さらに、スポーツ観光の発展は「観光」という分野に留まらず、活力ある健康長寿社会づくりや国際交流の促進など幅広く展開していくと考えられます。

当地におけるスポーツ観光についてみると、三重県では、50年以上の歴史がある鈴鹿サーキットを中心にモータースポーツが重要な観光資源となっているほか、近年ではインバウンド誘致を目指し、県がゴルフツーリズムの普及に向けた取組を推進しています。また、愛知県では、「スポーツツーリズム推進課」を設置した新城市が、自動車レース(新城ラリー)や自転車レース(ツール・ド・新城)、山岳レース(新城トレイル)を展開し、多くの観客・参加者を集めています。

スポーツ観光による地域活性化に向けた課題には、観客・参加者に地域で宿泊、消費してもらうための仕組みづくりや、地域が一体となって取り組むための組織の整備、スポーツが「観られる」、「できる」地域としてのPR、「支える」人材の育成などが挙げられます。今後、多くのビッグイベントが控えるなか、スポーツを通じた観光需要獲得に向けて地域の取組が重要となります。

三重銀総研 調査部 研究員 畑中 純一

図表 スポーツ観光における3つの資源

世界的にも ハイレベルな “観るスポーツ”

ビジターの観戦者がご当地グルメや周辺観光を楽しみ、また観光客が滞在プランの一つとしてスポーツ観戦も加えることで、旅行内容の充実のほか、各スポーツの普及振興、そして地域活性化を目指す。

【具体例】

プロ野球、Jリーグ、ラグビー、バレーボール、プロゴルフ、大相撲、武道、総合格闘技、バスケットボール、公営競技 etc

世代を超えて 人気を集める “するスポーツ”

マラソン等の参加者が応援の家族とともに、温泉などの周辺観光を楽しみ、また観光客が入浴前の一汗としてテニス等に勤しむことで、旅行内容の充実のほか、健康の増進、スポーツ施設の有効利用、スポーツ用品・ファッションの需要喚起、そして地域活性化を目指す。

【具体例】

マラソン、ウォーキング、サイクリング、登山、トレッキング、トライアスロン、スキー、スノーボード、アウトドアスポーツ、ゴルフ、草野球 etc

地域や国が一体 となって携わる “支えるスポーツ”

スポーツチームの地域経営や市民ボランティアとしての大会支援、地域や国を挙げての国際競技大会・キャンプ(スポーツ合宿)の誘致により、交流人口の拡大、地域活性化、地域・国の観光魅力の効果的発信を目指す。

【具体例】

プロリーグ運営、国体、インターハイ、合宿誘致、運動会、五輪、各種国際競技会、地域スポーツイベント、総合型地域スポーツクラブ etc

(資料)一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構